

2-9-2 金森氏の関ヶ原合戦東軍参加まで

<織田軍団の武将金森長近は、もともと徳川家康と味方同志>

金森長近は18歳の時から織田氏に仕え、信長の側近にいた武将である。天正3年(1575)、信長・家康連合軍が武田勝頼を三河長篠で破った長篠の戦いでは、「甲陽軍鑑」所載長篠合戦図の東方に、金森五郎八 5,000 人が、徳川軍の酒井左衛門 3,000 人とともに側面隊として記されている。家康と長近は、織田・徳川連合軍の味方同士として、古くから親しい間柄であった。この年、長近は、信長の命を受け加賀・越前征伐に加わり、その功により越前大野の城主となった。時に 52 歳である。

本能寺の変で信長が討死した時、長近は 59 歳であった。北国衆の 1 人として柴田勝家配下の武将であった長近は、勝家が敗死するまで、前田利家らとともに秀吉に敵対していた関係で、越前大野城は秀吉に召し上げられたということが、「全森^{ゆきえ}韃負由緒書」に載っている。秀吉が天下人になってからは、御咄衆^{おはなししゅう}として側近に仕えたが、常に家康との交流を絶やさなかった。秀吉亡き後、家康に肩入れすることは、豊臣子飼^{こがい}の大名ではないから、さほど、ためらいはなかったであろう。

<引用文献>

虎澤勇治『関ヶ原合戦と美濃・飛騨』61 頁 岐阜県歴史資料保存協会発行 平成 12 年